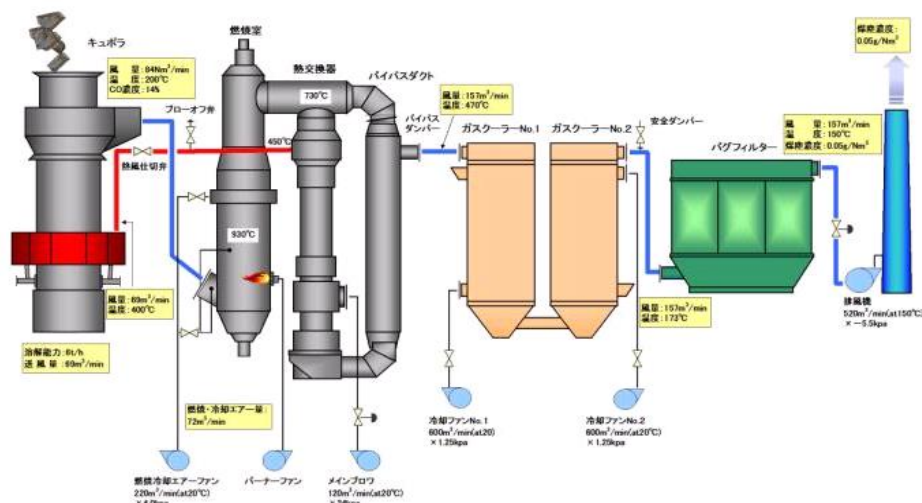


## 熱回収装置

- キュポラ操業において発生する排ガスにはコークス由来のCOガスが多く含まれており、これを吸上げ、燃焼させることで多量の熱を回収することができる。ここで得られた熱を熱交換器により、500℃～600℃の熱風に還元し、キュポラの燃焼エアとして再利用することで溶解効率の上昇、コークス比の低減等、優れた効果が得られる。当然回収された熱はキュポラの燃焼エアだけでなく、暖房や温水等にも還元可能である。最近ではサポイン事業の研究により高灰分コークスの利用に際しても有効であることがわかった。



- 納入実績**  
 2001年 日本鋳鉄管(株) (ドイツWurz社共同)、(株)豊田自動織機 (ドイツWurz社共同)、(株)日立金属 桑名工場 (ドイツWurz社共同)  
 2003年 栗本鐵工所(株) (ドイツWurz社共同)、(株)リケン (ドイツWurz社共同)  
 2004年 アサゴエ工業(株)、(株)東海鑄造所、NWS(中国)  
 2005年 新日本製鐵(株) (ドイツWurz社共同)  
 2006年 日吉鑄工(株)、東亜工機(株)  
 2007年 日産自動車(株) (ドイツWurz社共同)  
 2008年 JFEスチール(株) (ドイツWurz社共同)、日産自動車(株)  
 2009年 (株)IHI  
 2010年 (株)及精鑄造所(サポイン)  
 2011年 (株)コヤマ



(株)及精鑄造所



日立金属(株)



(株)コヤマ